

大庭清司教授定年退職記念号によせて

経済学部長 渡 辺 俊 三

大庭清司教授は、本年3月に定年を迎えられ、名城大学を退職されることになりました。

先生は名城大学商学部が経済学部と経営学部に分離した2000年4月に、金融論の教授として経済学部に着任されました。先生が名城大学に在籍した期間は13年間ではありますが、この間に先生は名城大学経済学部の発展に大いに貢献されました。

先生は1943年、福岡県八幡市（現福岡県北九州市八幡西区）に生まれ、九州大学経済学部を卒業後、三和銀行（現三菱東京UFJ銀行）に入行しました。6年後、野村総合研究所に転職し、爾来、研究員として証券アナリスト、企業財務研究、中国への債券発行のコンサルティング、アジアの金融・資本市場の育成プロジェクトへの参加などを行ってきました。40歳半ばにして、野村総研の役員となり、以後、野村総研の経営にたずさわってきました。そして2000年3月に発足したばかりの名城大学経済学部教授に着任しました。先生は経済学部における実務家教員の第1号です。

先生はビジネスの世界で培ったノウハウを遺憾なく発揮し、学部、大学院（修士課程、博士課程）の教育に八面六臂のご活躍をされました。ちなみに先生は学部では金融論、国際金融論、国際通貨論、専門ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ、基礎ゼミの授業を担当し、大学院修士課程では金融政策研究、経済政策研究指導、博士後期課程では経済政策論特殊研究、国際金融取引論（法務研究科）の授業を担当しました。学部のゼミにおいては、常にゼミ定員いっぱいの学生の指導をしてきました。また大学院修士課程においては、累計21名の学生が、博士後期課程においては5名の学生が先生の指導のもとに学位を取得しました。このように先生の教育面における貢献は余人をもって代えがたいものがあります。

また研究面では、先生の専門であります国際金融論の分野で多くの業績があります。個人的なことを言えば、経済学部の研究会において、先生から地域統括会社の主要な業務の一つとして金融決済（ネットィング）の話聞き、大企業における地域統括会社の位置づけが理解できたという経験がありました。具体的な企業の事業展開の中で国際金融の役割を説く先生の講義は、学生にも理解しやすいものであろうと納得した次第です。

さらに先生は2003年4月から2年間経済学部協議員を務め、2005年から2008年にかけて2期にわたり経済学部長の重責を果たしました。長い間ビジネスの世界に身を置いた先生が学内行政にたずさわるのは異種格闘技に参加するようなものであったかもしれませんが。しかし先生は、多彩な意見の多い経済学部において学部内の意見をまとめ上げ、厳しい環境下にある経済学部および経済学研究科の運営に努力されてきました。

このような先生の教育・研究・学内行政に対するご苦労とご業績に心から感謝し、ここに定年退職記念号を刊行し、先生に捧げます。今後も健康に留意されて、これまで以上に活躍されることを祈念し、定年退職号によせる言葉といたします。